
共同研究活動報告書

(90共75～77, 90共79～80, 91共82)

(凡 例)

1. 収録範囲

- ・この報告書は、本学総合研究所の共同研究プロジェクトの「研究活動報告書」を収録したものである。報告書は、活動終了後、概ね1995年1月までに提出されたものである。
- ・収録年度：1990年（平成2）年度から1991（平成3）年度に活動開始の通算75～82番中の6プロジェクト〔1992（平成4）年度活動終了5プロジェクトと1993（平成5）年度活動終了1プロジェクト〕を記号順に収録した。

2. 研究活動報告書の構成

- (1) 総括：共同研究の研究目的に照して、どの程度まで研究が推進されたかを自己評価したもの。
- (2) 研究成果：共同研究およびこれに関連する成果（著書，論文，学会報告等）。研究成果と共同研究との関連度は、テーマ，研究費負担額等を考慮して、研究スタッフ各自が評価したものであり、かなり幅のあるものである。
 - A プロジェクト研究そのもの。
 - B プロジェクト研究との関連の大きいもの。
- (3) 活動日誌：研究会，調査，ヒアリング，資料収集等の研究活動日誌。

3. その他

- ① スタッフの所属は、活動当時のものを本学を基準に示している。
- ② 研究成果は、報告のあったものを収録した。ただし記載方法は、収録の際修正した。また、実質的に継続しているプロジェクトの成果は、一般的に妥当と思われる時期のプロジェクト成果として記載収録している。
- ③ 年号は原則として、西暦を使用した。
- ④ 誌名のうち、本学の紀要類については、大学名は略し、巻号は1-1（第1巻第1号）で、号は2（第2号）で示した。例：『経済経営論集』1-1、『キリスト教論集』2，その他については必ずしも統一されていない。
- ⑤ 日誌は、原則として『総合研究所報』（1992年度，第18巻第1号より『総合研究所紀要』と改題）の日誌部分を再録した。記載方法は、できる限り統一をはかったが、記録の不備等により、果たせなかった部分もある。

プロジェクトおよび予算執行額一覧

共同研究プロジェクト

	プロジェクト 記 号	テ ー マ	研究期間（年数）	金額（円）
1	90共75	近代産業の遺跡・遺物の調査研究	90.4～93.3 (3)	1,495,908
2	90共76	歴史的都市界の社会・文化・経済（Ⅲ）	90.4～93.3 (3)	1,374,546
3	90共77	福祉専門職と福祉教育の課題	90.4～93.3 (3)	1,631,657
4	90共79	インドネシアの総合的研究	90.4～93.3 (3)	1,422,563
5	90共80	国際化時代の英語教育	90.4～93.3 (3)	1,511,972
6	91共82	中村真一郎の比較文学的研究	91.4～94.3 (3)	1,568,998
合 計				9,005,644

記号の意味：〔例〕 91共82→1991年度開始，通算82番目のプロジェクトを表わす。

研究課題(テーマ) 近代産業の遺跡・遺物の調査研究

研究期間 1990年4月～1993年3月(3カ年)

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

- ① 近畿の産業博物館, 約 100 館の内の主な71館を取り上げて, 各館に係わる産業の歴史の概要(あるいは企業の沿革, 技術の変遷)と博物館の展示内容や特徴を調査し, 紹介した『近畿の産業博物館』(301頁, 阿吽社, 1990年11月20日発行)を産業記念物調査研究会の名で出版した。
- ② 1990年度には, 「堺市域における産業記念物」調査を行うとともに, 他学会と協力して住友長堀銅吹所跡の保存運動を進めた。
- ③ 1991年度はトヨタ財団の委嘱により『産業技術史記念館』(1994年6月開館)の展示計画策定に参加し, 近代産業の歴史を織機と自動車で綴る『TMP (Toyota Memorial Project) 展示計画調査・報告書』をまとめた。
- ④ この3年間にニューズレター『大阪の産業記念物』(共同研究プロジェクト予算で発行)13号から16号を発行した。年に1～2回の発行であるが, 学外でも高く評価されている。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 並 川 宏 彦	文 学 部	金属機械工業および地域産業研究
(会計) 庄 谷 邦 幸	経 済 学 部	地域産業研究および海外産業資料館調査
池 野 茂	文 学 部	酒造業および地域産業研究
種 田 明	非常勤講師	食品産業および地域産業研究
相 川 佳予子	学 外 者	繊維産業および地域産業研究
三 宅 宏 司	学 外 者	地域産業研究
安 田 孝	学 外 者	建築業および地域産業研究

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
並 川 宏 彦	A	「まえがき, 国友鉄砲の里資料館, ヤンマーディーゼル・メモリアルホール, 旧長浜駅舎・鉄道資料館, 日立造船舞鶴館, 島津創業記念資料館, 文具資料館, 和泉利器堺刃物展示館, 自転車教室, ザ・バック包装資料館, 三木市立金物資料館, 大庫記念館, 三洋電機北条記念資料館, シャープ歴史ホール・技術ホール, 湯浅醤油・職人蔵」『近畿の産業博物館』

			阿吽社 1990年11月
並 川 宏 彦	A		「タイガー計算器(株)の計算機製造技術の変遷」『大阪の産業記念物』13号 1991年 3 月
並 川 宏 彦	A		「タイガー計算器(株)の1957年頃の生産技術」『総合研究所報』16-3 1991年 3 月
並 川 宏 彦	A		「イトーキ史料館」(資料館紹介)『大阪の産業記念物』15号 1992年 3 月
並 川 宏 彦	A		「TMP (Toyota Memorial Project) 展示計画調査・報告書」庄谷邦幸共著 TMP 展示計画調査研究会 1991年11月
並 川 宏 彦	A		「島津感応起電機——日本初のウィムズハースト誘導起電機——」『日本の産業遺産 300 選』第 2 巻 産業考古学会編 同文館 1993年
並 川 宏 彦	A		「機械式計算機——新しくて古い産業記念物——」『日本の産業遺産300 選』第 2 巻 産業考古学会編 同文館 1993年
庄 谷 邦 幸	A		「造幣博物館」「滋賀大学経済学部付属史料館」『近畿の産業博物館』阿吽社 1990年11月
庄 谷 邦 幸	A		「住友長堀銅吹所跡の発掘調査と保存運動」1, 2, 3 『大阪の産業記念物』13, 14, 15号 1991年 3 月, 10月, 1992年 3 月
庄 谷 邦 幸	A		「住友長堀銅吹所跡の保存について」1, 2, 3『産業考古学』58, 62, 65号
庄 谷 邦 幸	A		「石川県立歴史博物館」「石川県立尾小屋鉱山資料館」「鈴木そろばん博物館」『大阪の産業記念物』14号 1991年10月
庄 谷 邦 幸	A		「大和銀行貨幣資料館」『大阪の産業記念物』15号 1992年 3 月
庄 谷 邦 幸	A		「河内長野つまようじ資料室」『大阪の産業記念物』16号 1993年 3 月
庄 谷 邦 幸	A		「TMP (Toyota Memorial Project) 展示計画調査・報告書」並川宏彦共著 TMP 展示計画調査研究会 1991年11月
池 野 茂	A		「旧田中家鋳物民俗資料館, 赤穂市歴史博物館, 近江日野商人館, 近江商人郷土館, はかりの小歴史館, 上林記念館, 生野銀山, 生野鋳物館, うすくち龍野醬油資料館, 大倉記念館, 竹中大工道具館, 白鹿記念酒造博物館, 沢の鶴資料館, 菊正宗酒造記念館, 白鶴酒造資料館, 淀川資料館, 大阪市水道資料館」『近畿の産業博物館』阿吽社 1990年11月
池 野 茂	A		「韓国・産業技術館, 国立科学館(ソウル)」(資料館紹介)『大阪の産業記念物』13号 1991年 3 月
池 野 茂	A		「世界の貯金箱博物館」(資料館紹介)『大阪の産業記念物』14号 1991年10月
池 野 茂	A		「杉本尚次『アメリカ合衆国における伝統的建築物の保存・再生・活用に関する研究』他」(文献紹介)『大阪の産業記念物』16号 1993年 3 月
種 田 明	A		「京菓子資料館, 東映太秦映画村・映画文化館, 日本ペイント歴史館, ガス科学館, 美味伝承甲南漬資料館, U C C コーヒー博物館, グリコピア神戸, 神戸市水の科学博物館, 加美町立杉原紙研究所」『近畿の産業博物館』阿吽社 1990年11月
種 田 明	A		「ビールと麦酒——技術と生活史の一側面——」『大阪の産業記念物』13号 1991年 3 月

種 田 明	A	「技術と労働の博物館——ミュンヘンからマンハイムへ——」『大阪の産業記念物』14号 1991年10月
種 田 明	A	「ジューク・ボックス (jukebox) をおぼえていますか——自動演奏電気蓄音機小史——」『大阪の産業記念物』15号 1992年 3 月
種 田 明	A	「水のある生活——水に関するミニ社会史——」『大阪の産業記念物』16号 1993年 3 月
相 川 佳予子	A	「グンゼ記念館, 西陣織開館史料室, 川島織物文化館, 菱屋襟飾博物館, 友禅美術館古代友禅苑, 服飾資料館, 京都工芸繊維大学美術工芸資料館, 高島屋史料館, カネボウ繊維資料館, 東大阪市立郷土資料館, ユニチカ記念館」『近畿の産業博物館』阿吽社 1990年11月
三 宅 宏 司	A	「稲荷駅ランプ小屋, 梅小路蒸気機関車館, 疏水資料館, 交通科学博物館, 市電保存館, 大阪市立科学館, 神戸商船大学開示資料館, くじらの博物館・捕鯨船資料館」『近畿の産業博物館』阿吽社 1990年11月
三 宅 宏 司	A	「新潟県立自然科学館」(資料館紹介)『大阪の産業記念物』14号 1991年10月
安 田 孝	A	「巨椋池土地改良資料館, 松下電器技術館, 松下電器歴史館, 松下電工歴品館, 毎日放送・放送文化館, 大阪音楽大学付属楽器博物館, 日本民家集落博物館, 宝塚ファミリーランド宝塚電車館, 大和ハウス30周年記念科学館」『近畿の産業博物館』阿吽社 1990年11月
安 田 孝	A	「ベルギーの産業遺産の特徴と保存状況」『大阪の産業記念物』13号 1991年 3 月
安 田 孝	A	「大阪市下水道史料館」(資料館紹介)『大阪の産業記念物』15号 1992年 3 月
安 田 孝	A	「イガラダ(スペイン)の皮革産業博物館」『大阪の産業記念物』16号 1993年 3 月

3 活 動 日 誌

1990年度

1990年

- ・ 4 月 7 日 会合「『近畿の産業博物館』(仮題)出版の第8回打合せ——前年度から継続——」参加者: 池野茂, 庄谷邦幸, 並川宏彦, 種田明, 相川佳予子, 三宅宏司, 他に出版社より黒岩洋子氏(阿吽社) 場所: 大阪梅田, 関西文化サロン
- ・ 5 月 2 日 見学・調査「彦根城博物館見学・滋賀大学経済学部史料館史料調査」参加者: 庄谷邦幸, 並川宏彦 場所: 滋賀県
- ・ 5 月14日 会合「今後の研究調査方針, 『大阪の産業記念物』13号の編集方針」参加者: 池野茂, 庄谷邦幸, 並川宏彦 場所: 大阪梅田, 関西文化サロン
- ・ 6 月 6 日 調査・見学「シャープ天理工場及びシャープ技術ホール・歴史ホールの見学調査」参加者: 庄谷邦幸, 並川宏彦 場所: 天理市
- ・ 6 月 5 日 会合「『堺市域における産業記念物』調査打合せ」武田健氏(堺市経済局係長) 並川宏彦 場所: 堺市経済局

- ・ 6月19日 会合『『堺市域における産業記念物』調査打合せ』武田健氏（堺市経済局係長），並川宏彦 場所：堺市経済局
- ・ 6月26日 会合『『堺市域における産業記念物』調査打合せ』武田健氏（堺市経済局係長），鈴木隆夫氏（堺商工会議所企画調査部長），並川宏彦 場所：堺市経済局，堺商工会議所
- ・ 7月17日 調査『『堺市域における産業記念物』調査アンケート発送』並川宏彦，他に学生アルバイト2名 場所：本学，総合研究所
- ・ 9月16日 会合『『近畿の産業博物館』の校正・打合せ』参加者：池野茂，庄谷邦幸，並川宏彦，相川佳予子，安田孝，他に出版社より黒岩洋子氏（阿吽社） 場所：京都市左京区，京大会館
- ・ 10月17日 調査「史料館の聴取り調査」参加者：庄谷邦幸，並川宏彦 場所：大阪市城東区，大阪市下水道史料館 中央区，イトーキ史料館

1991年

- ・ 2月26日 会合「住友銅吹所を考える研究会」参加者：池野茂，庄谷邦幸，並川宏彦，三宅宏司，他に学外より森田恒之氏 場所：大阪，府立労働センター
- ・ 3月1日 セミナー出席「企業史料協議会セミナー」（庄谷邦幸） 場所：東京，私学会館
- ・ 3月31日 ニューズレター『大阪の産業記念物』13号発行

1991年度

1991年

- ・ 5月24日 見学会参加「川崎市民ミュージアム見学（主催：企業史料協議会）」（庄谷邦幸） 場所：川崎市
- ・ 5月26日 学会参加「産業考古学会」（庄谷邦幸） 場所：東京上野，国立科学博物館
- ・ 6月1日～2日 見学①「石川県立博物館（説明：本康宏司学芸委員）」（庄谷邦幸）②「石川県立尾小屋鉱山資料館」（庄谷邦幸） 場所：金沢市，小松市
- ・ 7月19日 見学「ポルシェ（自動車）博物館」（庄谷邦幸） 場所：神奈川県，箱根町
- ・ 7月23日 講演会参加『『南蛮吹き』をめぐって（大阪市大名誉教授藤野明氏）』（庄谷邦幸） 場所：大阪府立労働センター 604号室
- ・ 8月23日～24日 見学①「富士美術館」②「フェルケール博物館」（庄谷邦幸） 場所：静岡県富士宮市，清水市
- ・ 8月29日 見学①「ミツカン酢の里博物館」②「国盛酒の文化館」（庄谷邦幸） 場所：愛知県半田市 ③「一宮市博物館」（庄谷邦幸） 場所：一宮市
- ・ 8月30日 見学「世界の貯金箱博物館」参加者：池野茂，庄谷邦幸 場所：尼崎市，尼崎信用金庫
- ・ 8月30日～31日 調査「展示資料・展示方法の調査」参加者：並川宏彦，種田明，三宅宏司，他に学外より2名 場所：（8/30）金沢市 石川県立博物館，富山県 小矢部市 日本自動車博物館，（8/31）長岡市 長岡歯車製作所資料館，新潟県自動車博物館，長岡市立科学館，新潟市 新潟県立自然科学館
- ・ 9月1日 見学「J R 鷹取工場」（庄谷邦幸） 場所：神戸市
- ・ 9月8日 見学「大阪交通科学博物館」（庄谷邦幸） 場所：大阪市弁天町
- ・ 9月11日 見学「大阪交通科学博物館」参加者：庄谷邦幸，並川宏彦 場所：大阪市，弁天町

- ・ 9月28日 見学「大阪平和資料センター」(庄谷邦幸) 場所:大阪城公園
 - ・ 9月29日 見学「大阪平和資料センター」(庄谷邦幸) 場所:大阪城公園
 - ・ 10月7日 見学「尚古集成館・機械工場」(庄谷邦幸) 場所:鹿児島市
 - ・ 10月9日 見学①「福岡市博物館」②「新日鉄スペース・ワールド」(庄谷邦幸) 場所:
福岡市, 北九州市
 - ・ 10月17日 ニューズレター『大阪の産業記念物』14号発行
- 1992年
- ・ 3月6日 調査「展示資料・展示方法の調査」(並川宏彦) 場所:大阪中央区, イトー
キ史料館
 - ・ 3月23日～25日 調査①「マツダ(株)宇品工場見学」②「広島平和記念資料館の展示資料・展
示方法の調査」③3/24「広島県・市の重点施策聞き取り」 場所:広島
市役所企画調整局企画調整課, 同旧庁舎資料展示室, 広島県企画振興部
企画調整課, 中国総研 ④3/25「本学所蔵の日本最古の計算機のルーツ
調査」(並川宏彦) 場所:入船山記念館, 江田島旧海軍兵学校教育参
考館
※〔90共76〕と合同調査
 - ・ 3月31日 ニューズレター『大阪の産業記念物』15号発行
- 1992年度
- 1992年
- ・ 4月21日 調査「資料館の資料収集についてヒアリング」(庄谷邦幸) 場所:大阪中央
区, 大和銀行資料館
 - ・ 4月25日 会合「『住友銅吹所』講演会の企画・準備・会場設営・司会」(庄谷邦幸) 場
所:大阪府立労働センター
 - ・ 4月29日 調査「自転車博物館の資料収集状況のヒアリング」(庄谷邦幸) 場所:堺市
大仙公園内, シマノ・サイクルセンター
 - ・ 5月10日 調査「多田銀銅山の産業遺構, 古文書の調査」参加者:庄谷邦幸, 他に学外よ
り伊井孝雄(兵庫県鉱山史研究会), 内田俊秀(京都芸術短大), 佐久間
貴士(大阪府教育委員会) 場所:兵庫県猪名川町, 多田銀銅山
 - ・ 6月20日 研究会「江戸期の顔料一紺青および緑青一」報告者:鶴田栄一氏(大東化成工
業(株)常務取締役)参加者:庄谷邦幸, 並川宏彦, 種田明, 安田孝, 他
に佐藤宏(本学非常勤講師), 学外より伊井孝雄, 池田啓子, 石崎誠宏,
葛野豊, 川瀬博之, 酒井亮介, 杉野英太郎, 出水力, 広松恭幸, 宗田一
場所:大阪梅田, 関西文化サロン
 - ・ 6月28日 調査①「『北海道開拓記念館』の紺谷憲夫事務部長よりヒアリング」②「同記
念館の見学と開拓の村視察」(庄谷邦幸) 場所:北海道開拓記念館,
北海道開拓の村
 - ・ 8月8日 調査①「『つまようじ』の生産技術についてヒアリング:広栄社社長稲葉修氏」
②「『河内ワイン』見学と醸造技術についてヒアリング:金徳屋専務金
銅徳郎氏」③「今後の研究調査の方向について打合せ」参加者:池野茂,
庄谷邦幸, 並川宏彦 場所:①河内長野市, 広栄社つまようじ資料室
②羽曳野市, 河内ワイン醸造元金徳屋 ③大阪梅田, 関西文化サロン
 - ・ 8月22日 調査①「『暮らしの文化財』特別展見学」②「資料収集についてヒアリング:

学芸課長相蘇一弘氏」(庄谷邦幸) 場所：大阪市立博物館

- ・ 11月14日～15日 ①シンポジウム参加「多田銀銅山シンポジウム」(池野茂, 庄谷邦幸) ②見学会「多田銀銅山見学会」(庄谷邦幸) 場所：兵庫県, 猪名川町福祉センターほか

1993年

- ・ 3月15日 調査「大阪市工業研究所に保存を依頼した同研究所移転時の『産業記念物』の保存状況について調査」(庄谷邦幸, 並川宏彦) 場所：大阪市城東区森ノ宮, 大阪市工業研究所
- ・ 3月31日 ニューズレター『大阪の産業記念物』16号発行

研究課題(テーマ) 歴史的都市界の社会・文化・経済(Ⅲ)

研究期間 1990年4月～1993年3月(3カ年)

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

この研究プロジェクトの第Ⅰ期は、その成果を『界の伝統産業』にまとめた。第Ⅱ期は、堺市に関する基礎的資料の収集、関係諸機関のヒアリングをおこなった。第Ⅲ期は、行政機関、各産業の見学・ヒアリングをおこなうとともに、堺市の類似都市(港湾都市・歴史都市等)との比較をおこない、堺市を相対化するため、類似都市の行政担当者から「都市計画」の現状と問題点のヒアリング、諸プロジェクトの現場見学をおこなった。このことは各研究者の視野をひろめ、研究上の刺激にはなったが、プロジェクトとして、共同研究の成果をまとめるところまで結実できなかった。

本学は南大阪に立地しているので、地域社会・経済に貢献するためにも、研究上の有利性を生かすためにも、今後も地域研究を深めるべきだと思う。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 庄 谷 邦 幸	経済学部	界の経済構造と地場産業
(会計) 芝 村 篤 樹	経済学部	界の現代史
池 野 茂	文学部	南大阪の歴史・地理的形成
今 木 秀 和	経営学部	界の地域産業と企業経営
津 田 直 則	経済学部	界の地域政策
中 田 信 正	経営学部	界の地域産業と企業会計
松 浦 玲	文学部	界の近代史
横 井 清	文学部	界の中世史

※ 飯島伸子は1990年度のみ参加

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
庄 谷 邦 幸	B	『図説・大阪のすがた』(1991年版) 野々山久也共編 大阪市政調査会 1991年1月
庄 谷 邦 幸	B	『枚方市製造業の技術開発への取り組み』 枚方市商工課, 北大阪商工会議所 1991年3月
庄 谷 邦 幸	B	「工業団地の再評価」『経済経営論集』33-4 1992年3月

庄 谷 邦 幸	B	『バブル崩壊のなかの枚方市製造業』 枚方市商工課, 北大阪商工会議所 1992年 3 月
庄 谷 邦 幸	B	「日本の地域経済の現段階」『新・都市自治論』 ぎょうせい 1993 年 3 月
庄 谷 邦 幸	B	「大都市経済圏における都市型産業の研究(1)」『総合研究所紀要』 18-3 1993年 3 月
芝 村 篤 樹	B	『大阪府の百年』 小山仁示共著 山川出版 1991年10月
芝 村 篤 樹	B	「専門官集制・市民参加, そして区政」 大阪市政調査会編『新・都市自治論』 ぎょうせい 1993年 3 月
芝 村 篤 樹	B	「大阪の都市計画の推進者, 関一」『日本の「創造力」・近代現代を開化させた 470 人』 NHK出版 1993年 6 月
芝 村 篤 樹	B	「昭和恐慌と大阪」『大恐慌と戦間期経済の研究』 文眞堂 1993年11月
芝 村 篤 樹	B	「巨大都市の形成——市区改正から都市計画へ——」『都市と民衆』 吉川弘文館 1993年12月
池 野 茂	A	「歴史的都市堺市街の自然的基盤」『人文科学研究』 25-2 1990年 3 月
池 野 茂	B	『琉球山原船水運の展開』 ロマン書房 1994年 1 月
今 木 秀 和	B	『国際ビジネス・クラシックス』 共訳 文眞堂 1990年10月
今 木 秀 和	B	「戦後日本企業の設備投資と資金調達」 戦後日本経営研究会編著『戦後日本の企業経営』 文眞堂 1991年 3 月
今 木 秀 和	B	『グローバル・ポートフォリオ戦略』 共著 文眞堂 1993年12月
中 田 信 正	B	「台湾の会計・税法関連法令紹介」『経済経営論集』 32-2 1990年 7 月
中 田 信 正	B	「戦後税制と企業経営」 戦後日本経営研究会編著『戦後日本の企業経営』 文眞堂 1991年 3 月
中 田 信 正	B	「台湾における財務報告の事例紹介—台湾会計制度の予備的考察 2」『経済経営論集』 33-2 1991年 7 月
中 田 信 正	B	「台湾の会計・税法補足資料と研究雑感」『経済経営論集』 33-4 1992 年 3 月
中 田 信 正	B	「台湾の会計制度」「台湾の開示の現状」後藤文彦・小菅正伸共著 深津比佐夫編著『アジア NIES の会計』 清文社 1992年 4 月
中 田 信 正	B	「アメリカの連結納税制度について」『租税研究』 1990年 8 月
松 浦 玲	B	「大坂近海警衛に関する建言」「摂海警衛統備に関する報告」等の校註『勝海舟全集別巻, 来簡と資料』 講談社 1994年 3 月
横 井 清	B	「『菖蒲茶』『菖蒲』『箒』」『国際文化論集』 2 1990年 8 月
横 井 清	B	『光あるうちに——中世文化と部落問題を追って——』 阿吽社 1990 年12月

学会報告等

発表者名	関連度	報告論題名→学会または団体名→発表年月
今 木 秀 和	B	“The Globalization of Japanese Companies and Multi-dimensional Performance Evaluation” MNEs and 21st Century Scenarios——In search of new theory policy and strategy——と題する国際シンポジウム 1990年 7 月
中 田 信 正	B	「合併差損益——合併税務計算の体系的研究の検討——」税務研究学会

第4回大会 1992年10月

3 活 動 日 誌

1990年度

1990年

- ・ 4月24日 研究会「芝村篤樹著『関一』をめぐって」報告者：松浦玲 参加者：飯島伸子，今木秀和，芝村篤樹，庄谷邦幸，津田直則，中田信正，横井清 場所：本学，総合研究所
- ・ 6月3日 調査「新空港建設に伴う環境調査及び住民の聞き取り調査」参加者：飯島伸子，芝村篤樹，庄谷邦幸，津田直則，松浦玲，横井清，他に坂原利満氏（阪南町議会議員） 場所：大阪，阪南町箱作
- ・ 9月20日 調査「大阪市・大阪府の公文書館の見学及び公文書の保存について」参加者：飯島伸子，芝村篤樹，津田直則，横井清，他に山下直登 場所：大阪西長堀 大阪市公文書館，大阪帝塚山 大阪府公文書館
- ・ 11月7日 調査「堺の産業に関する工場見学」参加者：飯島伸子，庄谷邦幸，津田直則，中田信正 場所：堺市鉄砲町 小泉製作所（自転車，オートバイ等部品メーカー），神南辺町 真生印刷堺工場（印刷のハイテク工場）

1991年

- ・ 3月6日～7日 調査①「東京湾岸開発と大阪湾岸（特に堺泉北コンビナート）との比較」 ②「東京都の伝統産業の視察」参加者：飯島伸子，今木秀和，芝村篤樹，庄谷邦幸，津田直則，中田信正，松浦玲，横井清 場所：横浜市役所，川崎市役所，東京都 岡村染工場

1991年度

1991年

- ・ 6月14日 ①調査「堺事件（1868年）の現場検証」 ②研究会「堺事件について」報告者：松浦玲 参加者：池野茂，今木秀和，芝村篤樹，庄谷邦幸，中田信正 場所：堺市，妙国寺
- ・ 11月8日 調査「堺市の地場産業＝食料品加工業の見学とヒアリング」参加者：池野茂，芝村篤樹，庄谷邦幸，津田直則，他に岡崎守男，客員研究員 Balsan Serjav（モンゴル科学アカデミー研究員），Ann Noe（短期留学生） 場所：堺市鳳東町，松本食品工業 堺市石津，大醬（株）

1992年

- ・ 2月26日 ①調査「大阪市南港地区，港湾管理センター，関西電力，野鳥園，ミズノ大阪本社，コンテナヤード」 ②研究会「大阪市のウォーターフロント開発について」参加者：池野茂，芝村篤樹，庄谷邦幸，津田直則，山下直登，他に B. Serjav 場所：大阪市住之江区，南港諸施設
- ・ 3月13日～14日 ①セミナー参加「非文字資料のインデックス（主催：日本索引家協会）」 ②資料収集「地場産業関係」（庄谷邦幸） 場所：東京，軽子坂ビル会議室 国立国会図書館
- ・ 3月23日～25日 調査「広島市および広島県の総合開発計画のヒアリングとウォーターフロントの再開発の見学」参加者：庄谷邦幸，津田直則，中田信正，他に B.

Serjav ※合同調査〔90共75〕に詳細記録

- ・ 3月27日 調査「堺市の伝統産業、敷物工業の調査・ヒアリング」参加者：庄谷邦幸，他に B. Serjav 場所：堺市，日本敷物団地

1992年度

1993年

- ・ 1月6日 ①研究会「小山仁示・芝村篤樹著『大阪府の百年』の合評」報告者：庄谷邦幸
②見学「ピース・オーサカ」参加者：池野茂，芝村篤樹，津田直則，横井清，他に巖善平，中田信正 場所：大阪市城東区森ノ宮，ピース・オーサカ
- ・ 2月2日 シンポジウム参加「21世紀に向けた都市の役割（主催：堺都市政策研究所）」（庄谷邦幸） 場所：堺市南向陽町，東京第一ホテル堺
- ・ 2月20日 フォーラム参加「歴史環境デザインフォーラム（主催：堺市）」（池野茂，庄谷邦幸） 場所：堺市長曾根町，南大阪地場産業振興センター（じばしん南大阪）
- ・ 3月16日～17日 調査・見学①「愛知県及び名古屋市の総合計画ヒアリングと名古屋港見学」
②「トヨタグループ企業の見学」 参加者：池野茂，今木秀和，芝村篤樹，庄谷邦幸，津田直則，中田信正，松浦玲，横井清 場所：名古屋市，愛知県経済研究所，名古屋市役所，名古屋港，刈谷市及び豊田市，豊田自動織機，トヨタ自動車堤工場

研究課題（テーマ） 福祉専門職と福祉教育の課題

研究期間 1990年4月～1993年3月（3カ年）

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

本研究の目的は、専門性の高い福祉マンパワーを供給するために、福祉各分野での専門教育のあり方と各分野の課題を探究することにあったが、それぞれ専門分野の異なる研究スタッフが各自の研究計画に基づき研究成果を発表し、またその成果を研究会で検討し、今後の研究課題と方向性を助言し合うなど、スタッフ各人の努力により、別紙の通り、それ相当な研究成果を遂げ、かなりのレベルで初期の研究目的を達成することができた。なかでも、瀧澤（仁）の「社会福祉八法改正と社会福祉改革」や「障害者差別禁止と社会福祉の権利」、上野谷の「ケースマネジメントの必要性とヘルパーの役割」、松本の「アメリカ合衆国の大学における社会福祉教育の実態と動向」、野々山の「家族福祉の視点」、中村の「社会福祉援助技術が適用される場と対象分野」、北野の「自立生活センターの組織・運営・助政」、小山の「社会福祉援助技術現場実習の現状」などは、社会福祉教育の今日的課題であるとともに、大学教育の研究課題と係わりの深いテーマを取りあげて福祉の本質を追求した労作であり、学内外を問わず広く評価されうるものである。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 松 本 眞 一	社会学部	福祉専門職と福祉教育に関する研究
(会計) 瀧 澤 仁 唱	社会学部	保険・手当・扶助等と福祉専門職の関係
上野谷 加代子	社会学部	施設入所・在宅福祉と福祉専門職の関係
北 野 誠 一	社会学部	ノーマリゼーション、自立生活と福祉専門職
小 山 隆	非常勤講師	ソーシャルワーク・フィールドワークと福祉専門職
大 谷 悟	非常勤講師	フィールドワークと福祉専門職との関係
佐 藤 克 繁	非常勤講師	地域福祉と福祉専門職との関係
中 村 永 司	非常勤講師	児童福祉・家族福祉と福祉専門職
野々山 久 也	非常勤講師	家族福祉と福祉専門職との関係
本 村 汎	非常勤講師	家族社会学・老年学と福祉専門職
宮 本 義 信	学 外 者	福祉関連領域と福祉専門職との関係

※ 小山氏は1992年度までは本学専任教員、宮本氏は1991年度までは非常勤講師。

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
松 本 眞 一	A	「アメリカ合衆国の大学における社会福祉教育の実態と動向」『社会学論集』25-1 1991年7月
松 本 眞 一	B	「個別援助技術」岡本民夫, 小田兼三編著『社会福祉援助技術総論』ミネルヴァ書房 1990年4月
瀧 澤 仁 唱	A	「『障害を持つアメリカ国民法』の検討」『週刊社会保障』1616号 1990年12月
瀧 澤 仁 唱	A	「障害者差別禁止と社会福祉の権利」『社会学論集』25-1 1991年7月
瀧 澤 仁 唱	B	「身体障害者福祉法上の障害者」『社会保障判例百選』第2版 1991年10月
瀧 澤 仁 唱	A	「高齢化社会と社会保障法」『社会学論集』25-2 1991年12月
瀧 澤 仁 唱	A	「社会福祉八法改正と社会福祉改革」『社会学論集』26-1 1992年7月
瀧 澤 仁 唱	A	「障害者と高校入学」『社会学論集』26-2 1992年12月
瀧 澤 仁 唱	A	「障害者の高校不合格が裁量権の逸脱又は、濫用とされた例」『民商法雑誌』177巻6号 1993年3月
瀧 澤 仁 唱	A	「障害者と雇用」『社会学論集』27-1 1993年9月
上野谷 加代子	B	「社会福祉援助技術の実践分野」岡本民夫, 小田兼三編著『社会福祉援助技術総論』ミネルヴァ書房 1990年4月
上野谷 加代子	B	「高齢者と都市コミュニティ——参加と協働の場を求めて——」都市問題研究会『都市問題研究』1991年9月
上野谷 加代子	A	「ケースマネジメントの必要性和ヘルパーの役割」『ホームヘルプサービスの課題とすすめ方』1991年3月
上野谷 加代子	B	「高齢化社会における社会福祉の新展開」大阪市政調査会編『新・都市自治論』ぎょうせい 1993年3月
北 野 誠 一	B	「自立生活センター全国協議会(J I L)論」『自立生活NOW』JIL 1992年3月
北 野 誠 一	B	「創造的自立にむかって」『障害者の福祉』日本リハビリテーション協会 1992年3月
北 野 誠 一	B	「自立生活センターの組織・運営・財政」定藤丈弘・中西正司共編『障害者の自立生活センター』朝日新聞厚生文化事業団 1993年9月
小 山 隆	A	「社会福祉援助技術現場実習の現状——今後の研究に向けて——」『社会学論集』25-1 1991年7月
佐 藤 克 繁	A	「地域福祉に関する覚書き」『桃山学院大学教育研究所研究紀要』第1号 1992年3月
中 村 永 司	B	「生活保護の基本原理」『公約扶助論』相川書房 1991年4月
中 村 永 司	B	「身体障害児・者の福祉」『日本福祉年鑑』91 講談社 1991年4月
中 村 永 司	A	「社会福祉援助技術が適用される場と対象分野」『社会福祉援助技術総論』中央法規 1992年3月

中 村 永 司	B	「肢体不自由児の社会的自立に向けて」『子どもの権利条約と児童福祉』 ミネルヴァ書房 1992年 3 月
野々山 久 也	B	「家族多様化の時代と家族福祉」『市政研究』No. 98 1993年 1 月
野々山 久 也	B	『家族福祉の視点』 ミネルヴァ書房 1992年 8 月
本 村 汎	A	「高齢者の主観的幸福感に関する研究」『家族社会学研究』第 4 号 1992年 7 月
宮 本 義 信	A	「看護実践の思想的基盤」 大阪市環境保健局 1990年

学会報告等

発表者名	関連度	報告論題名→学会または団体名→発表年月
瀧 澤 仁 唱	A	「アメリカ障害者法」 日本労働法学会関西支部会 1991年 4 月
瀧 澤 仁 唱	A	「障害者と高校入試」 日本社会福祉学会第40回大会 1992年10月
瀧 澤 仁 唱	A	「障害者雇用法の問題点」 日本労働法学会関西支部会 1992年12月
瀧 澤 仁 唱	A	「障害者と雇用」 日本社会福祉学会第41回大会 1993年 9 月
上野谷 加代子	A	「資格、あらためて資質を問う」 大阪ソーシャルワーカー協会 1992 年11月
大 谷 悟	A	「社会福祉施設の今後の課題とその展望」 日本ソーシャルワーカー協 会 1992年 5 月
大 谷 悟	B	「退園後の進路について」 中部近畿肢体不自由児施設生活指導部会 1992年10月

3 活 動 日 誌

1990年度

1990年

- ・ 6 月15日 会合「社会福祉実習に関する現場職員との会合」参加者：小山隆、瀧澤仁唱
学外より岡野嗣男（大阪中央児童相談所）中西裕（四恩学園），山本
利彦（堺市社会福祉協議会） 場所：大阪狭山市，クロスポイント
- ・ 6 月28日 研究会「社会福祉教育のあり方をめぐって——卒業から25年，社会福祉施設長
として——」講師：野口正信氏（薫英荘施設長） 参加者：上野加代子，
北野誠一，小山隆，松本眞一，大谷悟，他に藤間繁義，宮本孝二，大谷
峯雄，学外より宇治忠（門間荘），東利昭（コロニー），久保明浩，山本
利彦（堺市社協），西沢由美（箇井寮），重野務（美原の里） 場所：本
学，チャペル
- ・ 6 月29日 会合「社会福祉実習に関する現場職員との会合」参加者：北野誠一，小山隆，
瀧澤仁唱，松本眞一，他に藤間繁義，学外より野口正信（薫英荘施設
長），萩本文人（川西市社協），山本利彦（堺市社協） 場所：大阪狭山
市，ビッグボーイジャパン狭山店
- ・ 8 月 6 日 調査・会合「社会福祉教育の方法と実習のあり方について——日米の文献資料
収集と現場人との会合——」岡田隆介氏（広島市児童相談所長），松本
眞一 場所：広島女子大学図書館，広島市児童相談所
- ・ 8 月26日 調査「自立生活問題研究所（ILRU）における自立センターのソーシャルワー

～9月2日 カーの研修プログラム」(北野誠一) 場所：米ヒューストン、ベイリー
医科大学付属自立生活問題研究所

・9月28日 研究会「スタッフの研究状況報告と今後の研究の進め方」参加者：上野谷加代
子，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一 場所：本学，松本研究室

・11月17日 ①研究会「家族福祉について」報告者：野々山久也 ②会合「桃大OBの福祉
職従事者とディスカッション」参加者：上野谷加代子，小山隆，瀧澤仁
唱，松本眞一，大谷悟，他に学外より桃大OB14名（東利昭，宇治忠，
川岸祥泰，衣畑祐子，新崎国広，関三郎，田中祥隆，中西裕，畑一郎，
藤田満，森克彦，森本裕行，山本利彦，横井誠二） 場所：本学，A館
大会議室

1991年

・2月6日～12日 調査「イエール大学とコネティカット州がタイアップした精神障害者センター
のケースマネジメントシステム」(北野誠一) 場所：米ニューヘイブン，
イエール大学

・2月28日 会合「実習施設等の現場から実習教育・福祉教育への要望など」参加者：上野
谷加代子，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟，他に実習施設長等
（宇治忠，大久保祐子，岡部嗣男，金戸述，坂本光哉，重野勉，竹渕陽
三，中西裕，布川のぞみ，藤江三郎，藤田徹，南英子，三宅則良，宮武
修，森克彦） 場所：大阪天王寺，都ホテル

1991年度

1991年

・6月14日 会合「社会福祉現場実習について」参加者：北野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，他
に学外より田中英行（堺市民生局），森本裕行（大阪府精神薄弱者更生
相談所） 場所：本学，共同研究室

・6月14日 会合「米国の福祉制度について——ADAを中心に——」報告者：北野誠一
参加者：上野谷加代子，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一，中村永一，野々
山久也 場所：本学，総合研究所

・6月21日 会合①「今後の社会福祉実習のあり方について」②「社会福祉士資格の展望に
ついて」参加者：北野誠一，大谷悟，他に学外より藪内昭夫（奈良県立
盲聾啞児施設筒井寮次長），藤田満（社会福祉法人ヘレンケラー大平学
園職員） 場所：大阪狭山市，ビッグボーイ・ジャパン狭山店

・7月6日 研究会・会合「最近の福祉職採用の状況について」 参加者：上野加代子，北
野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟，他に学外より有町香月，
飯島伸一，市原健造，宇治忠，岡野嗣男，岸本義昭，木村隆，郷原雅子，
桜井恒男，沢村稔，重野務，高谷義信，田中裕，中川恵美子，中西裕，
西沢由美，東利昭，藤田満，的場武，丸山千枝，森克明，山本利彦，山
本裕，力谷浩文 場所：本学，A館大会議室，A—403教室，A—404教
室

・9月2日～16日 調査「ハワイ大学並びにアメリカ合衆国の大学全般における社会福祉教育及び
関連事項の実態動向調査」(松本眞一) 場所：ハワイ

・10月16日 研究会「社会福祉援助技術現場実習教育研究会」参加者：北野誠一，小山隆，
瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟，他に学外より石谷英治，岡野嗣男，荻本

- 文人，川岸祥泰，久保明浩，坂本光哉，重野勉，田坪啓二，田中英行，藤田満，丸山千枝，力谷浩文 場所：本学，A館中会議室
- ・ 11月20日 研究会「社会福祉援助技術現場実習教育研究会準備会」参加者：北野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，大谷悟，他に学外より荻本文人，久保明浩，重野勉，場所：大阪昭和町，桃山学院同窓会館
 - ・ 12月6日 研究会「福祉専門職と福祉教育の課題」報告者：松本眞一，小山隆 参加者：北野誠一，瀧澤仁唱，中村永司，大谷悟，佐藤克繁 場所：本学，総合研究所
 - ・ 12月11日 研究会「社会福祉援助技術現場実習教育研究会」参加者：上野谷加代子，北野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟，他に学外より石谷英治，岡野嗣男，荻本文人，川岸祥泰，久保明浩，坂本光哉，田中英行，中西裕，西浦範幸，長谷和弘，東利昭，藤田満，丸山千枝，三木義弘，宮柴健治，力谷浩文 場所：本学，A館中会議室
- 1992年
- ・ 2月26日 研究会「社会福祉施設実習教育について」参加者：北野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一，他に松原榮，学外より社会福祉施設関係者18名 場所：大阪市，天王寺都ホテル
 - ・ 3月2日 研究会「社会福祉施設実習教育について」参加者：北野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，大谷悟，他に学外より石谷英治，岡野嗣男，荻本文人，川岸祥泰，久保明浩，坂本光哉，重野勉，田中裕，長谷和弘，藤田満，三木義弘 場所：本学，A館中会議室
- 1992年度
- 1992年
- ・ 7月11日 研究会「社会福祉援助技術現場実習教育研究会」参加者：北野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一，他に各施設現場実習教育関係者35名 場所：本学，A館大会議室
 - ・ 7月26日 研究会「福祉実習教育について」参加者：北野誠一，瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟，佐藤克繁，中村永司，野々山久也 場所：本学，総合研究所
 - ・ 12月11日 研究会「障害者と教育」参加者：上野谷加代子，北野誠一，小山隆，瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟，佐藤克繁，中村永司 場所：本学，総合研究所
- 1993年
- ・ 1月22日 研究会「社会福祉実習教育の今後について」参加者：上野谷加代子，北野誠一，瀧澤仁唱，松本眞一 場所：本学，松本研究室
 - ・ 2月9日 研究会参加「ホームヘルプ研究協議会『業務研究』」（上野谷加代子） 場所：東京，全国社会福祉協議会
 - ・ 2月23日 研究会「福祉実習教育の今後について」参加者：上野谷加代子，小山隆，北野誠一，瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟，他に学外の福祉関係者岡野継男，重野勉，坂本光哉，宮芝健治 場所：大阪市，天王寺都ホテル本館
 - ・ 3月4日～5日 調査「小規模多機能型老人ホーム見学会」（上野谷加代子） 場所：島根県出雲市，ことぶき園
 - ・ 3月11日 研究会「大学における福祉教育の再検討と将来展望」参加者：上野谷加代子，北野誠一，瀧澤仁唱，松本眞一，大谷悟 場所：大阪市，天王寺都ホテル

ル本館

- ・ 3月16日～17日 調査「福祉教育に関する資料収集とヒアリング」（松本眞一） 場所：愛知県，日本福祉大学，愛知県立大学
- ・ 3月29日 調査・研究会参加「民科法律部会全国合宿研究会『福祉実習と大学教育』」（瀧澤仁唱） 場所：福島県，土湯温泉
- ・ 3月30日～31日 調査「鹿児島経済大学社会学部社会福祉学科カリキュラム検討聴取」（松本眞一） 場所：鹿児島市下福元町，鹿児島経済大学

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

「インドネシアに関心を有する者が、各人の専門分野に基づくさまざまな視点から問題を提起しあい、インドネシアの歴史・文化・政治・経済等を総合的に検討すること」が研究の目的であった。この目的は、3年間の共同研究会の積み重ねによって、かなりの程度まで到達されたのではないと思われる。特に、外部からのインドネシア学の専門研究者を招いた研究会、そして日本のインドネシア研究機関の訪問調査はきわめて有益であった。研究スタッフ全員が、なんらかの形でインドネシア各地を旅行し、インドネシアに対する現実の問題意識を保持していたことも貴重であった。

沖浦、蔵田の研究成果は、アジア全体と文明論的な視点からなされたものであり、他のスタッフもそれぞれの関心から特にバリ島とスンバ島の諸問題を論じた。スタッフ全員が必ずしもインドネシアの専門家ではないが、そのことによってインドネシアをより客観的により広い視野から考察することができたのではないと思われる。この方向を今後とも深めていきたい。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 沖 浦 和 光	文 学 部	比較文明論の視点から
(会計) 滝 澤 武 人	文 学 部	宗教学の視点から
北 野 誠 一	社 会 学 部	社会福祉の視点から
蔵 田 雅 彦	文 学 部	アジア教会史の視点から
清 水 真 一	文 学 部	比較言語学の視点から
藤 間 繁 義	文 学 部	キリスト教学の視点から
林 陸 雄	文 学 部	比較教育学の視点から
松 原 榮	チャプレン	実践神学の視点から

※ 林陸雄は1992年度より参加

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等	出版社名または書誌(巻号)名等	発行年月
沖 浦 和 光	A	『竹の民俗誌』	岩波書店	1991年9月
沖 浦 和 光	B	「日本民族の五つの源流」	『天皇の国・賤民の国』 弘文堂	1990年9月
沖 浦 和 光	B	「先住民族と近代文明」	『毎日新聞』	1990年5月

沖 浦 和 光	A	「海民の歴史と民俗——インドネシアを訪れて——」『日本の聖と賤・近代篇』 人文書院 1992年 4 月
滝 澤 武 人	A	「ホーム・スティ考」 ワークキャンプ実行委員会編 『アジアの人々との協働から学ぶ』 6 1991年
滝 澤 武 人	A	「スンバ島ワークキャンプ調査報告」 1991年
蔵 田 雅 彦	B	「現代アジアのキリスト教と神学——エキュメニカルな視点から——」『キリスト教論集』 28 1992年 3 月
蔵 田 雅 彦	B	『隣人としてのアジア』 日本基督教団出版局 1993年 8 月
清 水 真 一	A	「(1988年) バリ・キリスト教・プロテスタント教会の歴史と事業」『キリスト教論集』 29 1993年 3 月 (深澤徹との共同作業)
清 水 真 一	A	「SPP Lindi-Watu Sumba に関する基礎的調査結果」 ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々の協働から学ぶ』 7 1992年 8 月
藤 間 繁 義	A	“Menjembatani setia persaudaraan Kristen” ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々との協働から学ぶ』 4・5 1991年 3 月
藤 間 繁 義	A	“Pelajaran dengan pekerjaan bersama” ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々との協働から学ぶ』 6 1991年
藤 間 繁 義	A	“Mejembatani Persahabatan Internasional” ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々との協働から学ぶ』 8 1993年 3 月
林 陸 雄	A	「バリ・スカラシップの意義と今後の展望」『キリスト教論集』 29 1993年 3 月
林 隆 雄	A	「インドネシアの就学状況と今後の課題」『キリスト教論集』 30 1994年 3 月
林 陸 雄	A	「魅惑のインドネシア・ワーク・キャンプ」 ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々との協働から学ぶ』 5 1991年
林 陸 雄	A	「キャンプの概要」 ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々との協働から学ぶ』 6 1991年
林 陸 雄	A	「バリ中学生の信仰と進学希望に関する調査報告」 ワークキャンプ実行委員会編『アジアの人々との協働から学ぶ』 7 1992年
松 原 榮	B	「アジアの人々の協働から学ぶ——インドネシアで感じたこと——」キリスト教保育連盟『キリスト教保育』 1990年 9 月

学会報告等

発表者名	関連度	報告論題名→学会または団体名→発表年月
沖 浦 和 光	B	「21世紀とアジアの諸文明」比較文明学会 1991年 6 月
蔵 田 雅 彦	B	「アジアにおける植民地主義とキリスト教宣教をめぐる諸段階」日本基督教学会第39回学術大会 1991年 9 月
蔵 田 雅 彦	B	「アジアにおける植民地主義とキリスト教宣教——1910年エディンバラ国際宣教会議の討議を中心にして——」東南アジア史学会 1991年11月
藤 間 繁 義	A	“Fruitful Results of the Ecumenical Work Camp” Inauguration Assembly of C. U. A. C. (Colleges and Universities of Anglican Communion) [世界聖公会系大学連合], 於英国カンタベリー市クライストチャーチ・カレッジの Work Shop 全体会議で口頭発題。
林 陸 雄	A	「バリ奨学金制度の意義と展望」 人間科学会 1993年 3 月10日

3 活 動 日 誌

1990年度

1990年

- ・ 7月20日 研究会「インドネシア先住民族の文化」報告者：沖浦和光 参加者：蔵田雅彦，清水真一，滝澤武人，藤間繁義 場所：本学内
- ・ 8月30日 研究会「インドネシア現地旅行の報告」報告者：沖浦和光 参加者：蔵田雅彦，滝澤武人，藤間繁義，松原榮 場所：本学，ペテロ館
- ・ 12月7日 研究会「戦時下インドネシアにおける日本軍」講師：倉沢愛子氏（摂南大学教授） 参加者：沖浦和光，蔵田雅彦，滝澤武人，藤間繁義，松原榮，他にゴンザレス ダリオ，島久洋，柳父章 場所：本学，総合研究所
- ・ 12月28日～29日 研究会「インドネシア民族主義の諸潮流とキリスト教」報告者：蔵田雅彦 参加者：滝澤武人，藤間繁義，松原榮，他に木川田一郎，坪井克己 場所：河内長野市，南天苑

1991年

- ・ 2月8日 研究会「第2次大戦とインドネシアーその2ー」講師：倉沢愛子氏（摂南大学教授） 参加者：沖浦和光，蔵田雅彦，滝澤武人，藤間繁義，松原榮 他にゴンザレス・ダリオ，島久洋，林陸雄，フィリップ ビリングズリー，柳父章 場所：本学，総合研究所
- ・ 2月18日 会合「今後の研究の進め方について」参加者：沖浦和光，蔵田雅彦，滝澤武人，藤間繁義，松原榮 場所：本学内
- ・ 3月29～31日 ①研究会「インドネシア研究の視点と方法」講師：原誠氏（新島学園大学助教授）②調査「資料収集，研究所視察」参加者：沖浦和光，蔵田雅彦，滝澤武人，藤間繁義，松原榮 場所：東京，上智大学，早稲田大学，キリスト教アジア資料センター，アジア経済研究所

1991年度

1991年

- ・ 6月5日 研究会「インドネシアに関するテレビ・ビデオを見て」参加者：沖浦和光，北野誠一，蔵田雅彦，滝澤武人，藤間繁義，松原榮，他にゴンザレス ダリオ 場所：本学，ペテロ館306号室
- ・ 7月10日 研究会「東チモール問題とインドネシア・ナショナリズム」講師：松野明久氏（大阪外語大学助教授） 参加者：北野誠一，蔵田雅彦，滝澤武人，藤間繁義，松原榮，他に橋内武 場所：本学，総合研究所
- ・ 12月14日 研究会「パプア・ニューギニアのキリスト教」報告者：木川田一郎 参加者：沖浦和光，北野誠一，清水真一，滝澤武人，藤間繁義，松原榮，他に坪井克己，林陸雄 場所：河内長野市，南天苑

1992年

- ・ 1月22日 研究会「インドネシアの開発問題」講師：小泉允雄氏（摂南大学教授） 参加者：沖浦和光，北野誠一，清水真一，滝澤武人，藤間繁義，松原榮，他に島久洋，林陸雄，柳父章 場所：本学，総合研究所
- ・ 3月5日～7日 調査・資料収集「インドネシアの経済援助と開発問題」（3/6）国際協力事業

団（小野英男氏）、アジア太平洋資料センター（井上礼子氏）、(3/7) ア
ジア経済研究所 参加者：沖浦和光，滝澤武人，藤間繁義，松原榮，林
宏作 場所：東京

1992年度

1992年

- ・ 5月27日 研究会「最近のインドネシアの状況」講師：松野明久氏（大阪外国語大学助教授） 参加者：沖浦和光，北野誠一，清水真一，滝澤武人，藤間繁義，林陸雄，松原榮，他に橋内武 場所：本学，総合研究所
- ・ 6月3日 研究会「NGOの精神について」講師：村上公彦（アジア協会アジア友の会） 参加者：沖浦和光，清水真一，滝澤武人，藤間繁義，林陸雄 場所：本学内
- ・ 6月18日 研究会「インドネシアにおける民族と文化」報告者：沖浦和光 参加者：清水真一，滝澤武人，藤間繁義，林陸雄 場所：本学，ペテロ館
- ・ 7月12日 研究会「インドネシアの環境会議に参加して」報告者：沖浦和光 参加者：滝澤武人，藤間繁義，林陸雄 場所：堺市，好々亭
- ・ 8月31日 調査「インドネシアに関する資料収集と調査」（滝澤武人） 場所：東京，インドネシア大使館 インドネシア政府観光局
～9月1日

1993年

- ・ 1月29日～30日 合宿研究会「インドネシア・バリ島スンバ島の現状——インドネシア・ワークキャンプの教育的意義——」報告者：清水真一，藤間繁義，林陸雄，岩本英（総務課） 参加者：林宏作，石田和代（学生生活課） 場所：兵庫県有馬，有泉閣
- ・ 3月30日 調査「資料収集及び他大学のプロジェクト研究の実態調査」（沖浦和光） 場所：東京，学習院大学 東洋文化研究所ほか

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

アメリカで耳の不自由な人々のために開発された英語字幕入り洋画作品の英語字幕部分をコンピュータに取り込み・収集して Micro Oxford Concordance Program で頻度分析などを行い大学英語教育に活用するプログラム・教材などを作成するというのが本プロジェクトの目的であった。

英語字幕入り映画作品収集という点ではかなりの成果をあげた。洋画で 250 本以上, 児童文学作品 100 本以上, 他に自然・動物生態もの, ニュース・ドキュメンタリーなど 400 本を超えるデータをコンピュータに入力した。(これらの入力済みデータ・英語字幕は研究スタッフが担当科目などで実際に教材として実験的に使われてきている。1995年度から実施される「英語」の新カリキュラムでも一層体系的に使用されていくことが予想される。)

当初は Micro OCP を使って頻度分析を行いワード・リスト(頻度別・分野別), 高頻度・基本英語表現集などを作副教材としてクラスで使用するを考えていたが, データが大き過ぎてマイクロ OCP では扱えないことが分った。現在大型計算機用 OCP が購入されるのを待っているところである。映像・音声・文字が一体となった英語字幕入り洋画から, 教材に適した部分を編集して数本から成るビデオ教材を編集しようとしたが, 洋画の著作権は意外にきびしく・複雑で許可を得られなかった。しかし学内の授業で使用する点では, 何の問題点もないということなので, 鋭意新カリキュラム用教材を作成しているところである。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 中 井 紀 明	文 学 部	資料の収集・コンピュータ入力・教材編集
(会計) 宮 本 孝 二	社会学部	会計業務・社会学部生向け教養英語教材編集
沖 浦 和 光	文 学 部	コンピュータ入力データ分析
島 久 洋	文 学 部	入力済みデータ分析
友 沢 昭 江	文 学 部	入力済みデータ分析
西 村 徹	文 学 部	コンピュータ入力データ分析
橋 内 武	文 学 部	Video in Language Teaching に関する書誌の作成と基本文献解題の執筆
望 月 和 彦	経済学部	経済学部生向けの教材作成
吉 田 彌壽夫	文 学 部	日本語教本(英文)の作成・日本語単語頻度分析研究の体験を踏まえての英語教材, 作成への指導助言
リチャード・ バーウィック	文 学 部	Native Information の指導・紹介

- ※ 橋内武は1990年度のみ、リチャード・バーウィックは1990年度、1991年度のみ参加
 ※ 3年間で非常勤・外部の研究者の方々にご協力を頂いた

2 研究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
中 井 紀 明	A	「洋画使用の大学英語教育——一つの提案——」『人間科学』創刊号 1990年3月
中 井 紀 明	A	「洋画英語字幕とコンピューター」『総合研究所報』16-3 1991年3月
中 井 紀 明	A	「映画英語字幕語彙の研究」『英米評論』5 1991年12月
橋 内 武	B	「国際化とグローバル教育」『国際理解』第22号 1990年12月
吉 田 彌壽夫	A	『日常用語集——ラオス語版・カンボジア語版・ベトナム語版』共著 アジア福祉教育財団難民事業本部 1991年3月
吉 田 彌壽夫	B	(会話テープ)『日本人の生活と習慣——ラオス語版・カンボジア語版 ・ベトナム語版』共著 アジア福祉教育財団難民事業本部 1991年
吉 田 彌壽夫	B	『Business Japanese』共著 Sumikin Intercom Inc. 1990年4月
吉 田 彌壽夫	B	『しゅくだいドリル』1, 2, 3 アジア福祉教育財団難民事業本部 1990年5月～8月
吉 田 彌壽夫	B	『インドシナ定住難民日本語学習援助のための日本語教材ガイドブック』 共著 アジア福祉教育財団難民事業本部 1993年9月

3 活 動 日 誌

1990年度

1990年

- ・ 5月28日 会合「洋画台本教材開発についての意見交換」曾根田憲三氏（相模女子大学助教授），渡辺幸俊氏（相模女子大学助教授），近藤秀哉氏（NCI編集代表）中井紀明 場所：東京，帝国ホテル
- ・ 7月13日 研究会参加「データベース研究会」（中井紀明） 場所：東京大学大型計算機センター
- ・ 7月14日 会合「英語教育におけるコンピューター利用について意見交換・志村正樹氏（東海大学短期大学教授）」（中井紀明） 場所：東海大学短期大学
- ・ 7月31日 ①学会参加「LLA学会全国大会」（中井紀明）②会合「意見交換・菱田一三氏（東海大学助教授）」（中井紀明） 場所：神戸国際会館
～8月1日
- ・ 11月14日 研究会「人文学研究とコンピューター利用——千葉大学の場合——」講師：鶴巻幸平氏（千葉大学文学部行動科学科，加藤尚武研究室助手）参加者：中井紀明，橋内武，宮本孝二 他に井上義祐，島久洋，山川偉也 学外より伊豆十九司（坂田インクス），加藤映子（大阪女学院短大），櫻井敏子（大阪女学院短大），中村博明（坂田インクス） 場所：本学，計算機センター，ワレン館

1991年

- ・ 2月11日 研究会「洋画英語字幕のコンピューター利用」参加者：中井紀明，橋内武，宮本孝二，吉田彌壽夫，他に島久洋，学外より伊豆十九司（坂田インクス），加藤映子（大阪女学院短大），櫻井敏子（大阪女学院短大），中村博明（坂田インクス） 場所：本学，ワレン館
- ・ 3月30日 成果発表「洋画英語字幕とコンピューター」『総合研究所報』16-3（中井紀明）

1991年度

1991年

- ・ 6月15日 会合「映画教材開発の可能性について（同志社女子大学 竹内理氏）」（中井紀明） 場所：関西外国語大学
- ・ 6月20日 研究会「本年度の目標，夏休み中の校正分担，データー分析の方法と目的」参加者：友沢昭江，中井紀明，櫻井敏子，加藤映子，田浦秀幸，名部井敏代，本田盛，他に谷上れいこ（本学非常勤講師） 場所：本学，A館計算機センター会議室
- ・ 6月28日 ①研究会参加「テキストデータ・ベース研究会」②会合「人文学研究におけるコンピューター利用について意見交換」 参加者：中井紀明，Susan Hockey (Oxford University)，長瀬真理（東京女子大学），三木邦弘（大阪大学），山縣宏光（東京大学） 場所：東京大学大型計算機センター
- ・ 6月29日 ①シンポジウム参加「人文科学コンピューティング・シンポジウム」②会合「共同研究の可能性について打合せ（総合研究大学院大学 村上征勝氏）」（中井紀明） 場所：東京都港区，機械振興会館
- ・ 11月30日 研究会「コンピューター利用による英語教育」講師：鈴木博氏（東京大学教養学部教授）参加者：中井紀明，橋内武，宮本孝二，他に福田稔（本学非常勤講師），学外より荻原弘子（大阪府教育センター） 場所：本学，総合研究所
※文学部三学会（人間科学会・英語英米文学会・国際文化学会）と共催

1992年

- * 研究会①②③④『コンピューター利用の語学教育』 場所：本学，A館計算機センター会議室
- ・ 1月11日 ①「大阪女学院短期大学の場合：智原哲郎氏」参加者：中井紀明，宮本孝二，村田全
- ・ 1月22日 ②「松蔭女子学院大学の場合：倉石直臣氏」参加者：友沢昭江，中井紀明，宮本孝二，吉田彌壽夫
- ・ 1月25日 ③「関西学院大学の場合：本田盛氏」 ④徳島大学の場合：中村純作氏」参加者：中井紀明，橋内武，他に福田稔（本学非常勤講師）

1992年度

- ・ '92年度中随時 資料収集およびコンピュータ入力作業＝「英語字幕」入り（Closed-Captioned）ビデオ・レーザーディスクの収集および文章解析ソフト（Micro Oxford Concordance Program）を使って語彙分析を行なうためのコンピュータ入力作業を継続した。〔前年度までの191本に加え，1992年度は洋画ドラマ80本以上，児童文学作品45本以上，自然・動物生態もの13本，ドキュメンタリーもの25本など。〕

研究課題(テーマ) 中村真一郎の比較文学的研究

研究期間 1991年4月～1994年3月(3カ年)

1 総 括

(1) 研究目的およびプログラムの到達度評価

ペーパーとしては「中村真一郎とフランス文学——古典理解におけるフランス文学の影響」を『桃山学院大学人間科学』第3号(1992.3)が発表された。また「中村真一郎とヘンリー・ジェイムズ:『四季』をめぐって」の『多田敏男教授古稀記念論文集』(大阪教育図書)が用意されている(1995.5 発行予定)。

口頭発表としては『文化』の誕生——高橋健二とナチズム(平成5年度科研費研究「ファッション」研究会 1993.7), 「中村真一郎『蠣崎波響の生涯』を読む(当プロジェクト研究会発表 1991.10), 「中村真一郎による芥川研究について」(当プロジェクト研究会発表 1991.12), 更に, 前出のスタッフの論文を素材とした当研究会内の発表, 検討があった。その他, 関連する研究を個々のスタッフが行った。

上記のとおり, 共同研究からスタッフは研究上の成果と今後の研究の刺激を得た。なお, 共同研究期間に, 参考文献の購入・蓄積と書誌的データの入力成された。ちなみに中村真一郎の活動範囲とその業績生産の量は膨大である。こうした資料やデータを中断状態に措くことはできない。この共同研究はプロジェクトとしては解散したが, 上記に見た集成成果を継続・追究して, 極く近い将来, 一定のまとめを提示する予定である。

(2) 研究スタッフ

氏 名	所 属	研究課題の役割および相互連関
(代表) 出 原 博 明	文 学 部	比較文学的考察
(会計) 志保田 務	文 学 部	書誌面の集成, 分析
赤 瀬 雅 子	文 学 部	比較文学的考察
国 松 夏 紀	文 学 部	比較文学的考察
高 田 里恵子	文 学 部	比較文学的考察
Olivier Birmann	文 学 部	比較文学的考察

2 研 究 成 果

著書または論文その他

著 者 名	関連度	書名または論文名等→出版社名または書誌(巻号)名等→発行年月
出 原 博 明	B	「きらきら, 海の Santiago さん, あなたはいったい何かしら?——3つのリフレインに導かれての論考——」『英米評論』8 1993年12月
出 原 博 明	B	「Nick Carraway の視点——The Great Gatsby の技法研究——」

- 『英米評論』9 1994年12月
- 出 原 博 明 A 「中村真一郎とヘンリー・ジェイムズ——『四季』をめぐる——」樋口欣三等共著『多田敏男教授古稀記念論文集』 大阪教育図書 1995年5月
- 志保田 務 B 「書誌単位・レベル：議論の蓄積その意義」『T P & D フォーラムシリーズ』 1992年6月
- 志保田 務 B 「森耕一と整理技術論」『目録と分類の理論：森耕一と整理技術の発展』 日本図書館研究会 1993年11月
- 志保田 務 B 『日本図書館研究会整理技術研究グループ史』 日本図書館研究会整理技術研究グループ 1993年12月
- 志保田 務 B 「書誌情報の標準化とO P A C—1990年代以降の動向と発展」 北克一等共著 『図書館界』第45巻1号 1993年5月
- 志保田 務 B 「『日本目録規則1987年版』改訂の動向と問題点——1992年改訂」 北克一共著 『図書館界』第45巻5号 1994年1月
- 赤 瀬 雅 子 B 「永井荷風とフランス文学」共著 松村昌家編『比較文学』（仮題）世界思潮社 1994年12月
- 赤 瀬 雅 子 A 「中村真一郎とフランス文学——古典理解におけるフランス文学の影響——」『人間科学』3 1992年3月
- 赤 瀬 雅 子 B 「永井荷風の批判精神——『断腸亭日乗』にみる韓国観を中心として——」『総合研究所紀要』18-1 1992年6月
- 赤 瀬 雅 子 B 「孤独への軌跡——永井荷風の七十九年——」『鳩よ』（特集永井荷風）第11巻第2号 1993年2月
- 赤 瀬 雅 子 B 「日本近代文学にみる船旅——魯文，荷風，前田河，岸田——」『人間科学』6 1994年1月
- 国 松 夏 紀 B 「芥川龍之介とドフトエフスキイ——『カラマーゾフの兄弟』から「藪の中」へ——」 関口安義編『アプローチ芥川龍之介』 明治書院 1992年5月
- 高 田 里 恵 子 B 「アンドリアス・グリューフウス，あるいは幸福な二番煎じ」『ドイツ文学』90号 1993年4月
- 高 田 里 恵 子 B 「文化の陥穽・文化の反省」『人間科学』6 1994年1月
- 高 田 里 恵 子 B 「ナチス文学と帝国大学のはざままで——高橋健二，闘う文化部長——」『20世紀における「ファシズム」の諸相と文化・社会の総合的比較研究報告書』 1994年3月
- Olivier Birmann B 「織田作之助の短編小説『六白金星』の仏訳《NARAO》」『人間科学』4 1993年3月
- Olivier Birmann B 「織田作之助の短編小説『木の都』の仏訳《Une ville peuplée d'arbres》」『人間科学』6 1994年1月
- Olivier Birmann B 《L'opérateur SASUGA en japonais》『国際文化論集』9 1994年2月

学会報告等

発表者名	関連度	報告論題名→学会または団体名→発表年月
志保田 務	B	「書誌記録の単位・レベル：議論の蓄積とその意義」整理技術・情報管理等研究集会（第1回） 1991年9月
志保田 務	B	「書誌データの変遷と標準目録規則・分類表オンライン時代の書誌記述」平成4年度（第2回）私立大学図書館阪神地区研究会 1992年11月
志保田 務	B	「整理技術時代の実像」 日本図書館研究会特別研究例会 1993年6月
志保田 務	B	「NCR1987年版改訂版の進行：その概要状況の検討」 日本図書館研究会第134回 研究例会 於：大阪中央会館 1993年6月
志保田 務	B	「相対目録法の「発見」に関する論説の成立時期を巡って」 第41回 日本図書館学会研究大会 於：相模女子大学 1993年10月
志保田 務	B	「目録法の蓄積と現代的課題 NCR92 改訂まで」 日本図書館研究会研究大会（第35回） 於：兵庫県中央労働センター 1994年2月
志保田 務	A	「中村真一郎の書誌作成をめぐる：中村の芥川龍之介関係の業積の確認を中心に」 日本図書館研究会奉仕研究グループ 1994年3月
赤瀬 雅子	B	「描かれた横浜・文学」（シンポジウムパネリストとして）日本仏学史学会1994年度大会 1994年5月
高田 里恵子	B	「『文化人』の誕生——高橋健二とナチズム——」平成5年度科研費研究「ファシズム」研究会 1993年7月

3 活動日誌

1991年度

1991年

- ・7月8日 研究会「中村真一郎とヘンリー・ジェイムズ」報告者：出原博明 参加者：赤瀬雅子，国松夏紀，志保田務，他に学外から小河織衣 場所：本学，共同研究室
- ・10月14日 研究会「『蠣崎波響の生涯』を読む」報告者：国松夏紀 参加者：赤瀬雅子，志保田務，高田里恵子，出原博明，Olivier Birmann 場所：大阪浪速区，グリル飛鳥
- ・12月16日 研究会「中村真一郎による芥川研究のあとづけ」報告者：志保田務 参加者：赤瀬雅子，国松夏紀，出原博明，Olivier Birmann 場所：大阪浪速区，グリル飛鳥

1992年度

1992年

- ・10月19日 研究会「中村真一郎とフランス文学」報告者：赤瀬雅子 参加者：国松夏紀，志保田務，高田里恵子，出原博明，Olivier Birmann 場所：大阪浪速区，グリル飛鳥

1993年度

1993年

- ・7月5日 研究会「中村真一郎のヘンリー・ジェイムズ観」報告者：出原博明 参加者：赤瀬雅子，国松夏紀，志保田務，高田里恵子，Olivier Birmann 場

- 所：大阪浪速区，グリル飛鳥
- ・ 8 月13日 調査「中村真一郎に関する文献の探索」参加者：赤瀬雅子，志保田務，Olivier Birmann，他に森田敏治（大阪女子大学） 場所：大阪女子大学図書館，堺市立中央図書館
- 1994年
- ・ 1 月27日 会合「プロジェクトの成果のまとめの打合せ」参加者：赤瀬雅子，国松夏紀，志保田務，出原博明，Olivier Birmann 場所：大阪浪速区，グリル飛鳥